

一般入学試験（前期日程：2科目型）

全 学 部

英 語

(P.1)

【出題の意図・ねらい】

①は基本的語彙や熟語の問題、②は空所補充方式の文法・語法問題、③は整序作文問題で、提示の日本語文に合うように、与えられた英単語で英文を組み立てる問題です。④は与えられた英文を並べ替え、テーマを自然に述べるパラグラフを作る問題です。問題文だけでは数例の可能性が考えられますが、選択肢を検討して考えれば正解は一つとわかります。⑤は対話文の流れを理解し、空所に適切な表現を選ぶ問題と、対話文の一部と同じ意味の表現、また同じ意味にならない表現を選ぶ問題です。何れも音声を使わないでコミュニケーション能力を問う問題です。⑥は長文読解で、英文の内容理解とともに語彙語法も問う問題です。

【採点結果からの感想】

最高点、最低点の隔たりは大きく、正答率平均が30%未満で残念な結果です。得点分布では正答率60~90%のところ小さい山があるとはいえ、100~120点の部分が中ぬけで、50%以下、特に30~90点に多くが集中していて、多くの受験者の基礎力不足は否めません。

①は問2, 5, 6, 7, 9の正答率が半分以下で残念な結果です。②の正答率半分以下の問題は6, 7, 8の3問だけでしたが、そのほかの正答率も全て50%台しかなく、出題形式に対応せず、全体的に誤答が多く、基礎的文法、語法の学習が不十分とみられます。③は問1と3の正解が比較的多い一方、問2は正答率の低い結果となっています。提示の日本語文も、与えられた英単語も非常に易しいものばかりですが、これらを組み立てる力が不足しているといえるでしょう。④も難しい単語は使っておらず、文章自体もそれぞれ平易ですが、選択肢で提示された並び順を検討しつつ文の流れを追っていかないと正解が出ません。ゆで卵の作り方を示した問1の正答率は半分足らずですが、正解を出せない場合は英語運用力に欠けています。問2は歴史や比喩の理解も必要な問題ですが、正答率は6割近くあり意外とよくできていたといえます。⑤は問2の解答番号3の問題が難しかったようですが、ほかは正答率が高く、受験生一般的に会話文を得意としていることが推察されます。⑥に関しては、語彙語法に関しても内容理解問題に関してもばらつきがあり、特に英問英答問題では問7が高正答率でしたが、8, 9はそれほどではありませんでした。語彙に関しては問5のHospitalityが一昨年の流行語であったにもかかわらず、綴りの似た単語に惑わされていると思われます。

【これからの学習の指針】

中高の英語教育がコミュニケーション重視に移行してから、基本的文法、語彙力の低下が見られ、リーディング能力が減退しているだけでなく、コミュニケーションそのものに必要な基礎力も結局獲得できていない現状が往々にして見られます。授業時間中に英語をしゃべる真似事をしているだけでは本当の英語力を体得することはできません。英語をマスターするためには毎日の授業の予習復習がまず大切で、その上に自学自習も必要と心がけてください。

国 語

(P.6)

【採点結果からの感想】

①は、自然科学系と社会科学系の学部に入学した場合に、②と古文③は人文系の学部に入学した場合に、現代文③は社会科学系の学部に入学した場合、多く読むことになる類の文章です。

③の選択問題において古文を解答した割合は、1割弱で、昨年度とほぼ同様の割合でした。

今年度の国語の問題は、全体的によくできていましたが、各問題で比較的正答率が低かった小問をあげます。1において、相対的に正答率が低かったのは問四、問六です。問四は文脈から考えた語句の意味を問う問題です。基本的な問題ですので、普段から文章を読むときに不明な単語があれば調べて身につけ、使えるようにしましょう。問六は問題文の趣旨において重要なポイントとなる語句を選ぶ問題です。普段から、文章全体が何を主張したいのか理解することを心がけて文章を読むことが大切です。

②で正答率が低かったのは、問一、問四です。特に、問四の正答率の低さは顕著でした。問四は、問題文の小説に対する批評として適切なものを選択する問題です。文章を批判的に読む姿勢は、社会人として大事な事柄のひとつです。問一は語句の文脈上の意味を問う問題です。文脈を考慮して語句の意味を敏感にとらえることができるように、文章を読む際に気をつけるとよいでしょう。

現代文③で正答率が低かったのは、問四、問五でした。問四の正答率は、2の問四と同じく非常に低いものでした。問四は語句の意味を問うものです。問五は文章全体の内容を問うものです。

古文③において、相対的に正答率が低かったのは問二と問三です。これらはいずれも文法に関する問題です。問二は「なり」の識別についての問題であり、形容動詞の一部、推定の助動詞、断定の助動詞、存在の助動詞を見分けることが求められました。問三(1)は品詞分解の問題で、「に」と「あり」がセットで「である」という断定の意を為すことを知っていれば正解できるものでした。問三(2)も品詞分解の問題でしたが、「去ぬ」がナ行変格活用動詞であることを知っていれば容易に正解できたでしょう。単語の意味や文意を問う問題については、概ね高い正答率でした。

【これからの学習の指針】

全体的に、文章全体または部分の意味を問う問題ができていませんでした。大学の勉強でも、雑誌などから情報を収集するうえでも、文章全体の意味を理解することは非常に重要です。文章全体の意味を理解するには、短い要旨を作る練習をするとういでしょう。

【出題の意図・ねらい】

大学入学後、学ぶときに必要となる計算力、数学の基礎知識、数学的思考を習得しているのかを確かめることが出題の意図です。つまり、数学I・Aの基礎知識をしっかり身に付けているか、そしてその知識を応用できる力を身につけているのかを見ることをねらいとしています。必答問題①は、二次関数の応用、整数と有理数、数と式、集合と論理に関する基本的な問題です。必答問題②は、二次関数のグラフに関する基本的な問題です。教科書の基本的な内容を理解し、問題文をよく読み理解すれば、①と②ともに易しい問題です。選択問題③は、整数の基本問題で、問題文をよく読んで、整数の基本的な性質を使えば解ける問題です。ただし、4問とも互いに関連性がないので、解くのに時間がかかり、少し難しいかもしれません。選択問題④は、問題をよく読んで、動点が正方形の各頂点とその中心を確率的にどう動くのかを理解すれば、問1は簡単に解けるはずですが、問2は、正方形の各頂点を一回だけ通るという条件が入ってきますが、この条件を満たす動点の行き方は2通りしかないので、気付くはずですが、後は、それぞれの確率を単純に足せばよいことがわかるはずですが、問3も同様で、条件に合う行き方は、3通りしかないので、後はそれぞれの確率を単純に足せばよいということになります。問4は、問3の条件とは違い、点Aを二回以上通ってよいことになっているのに気付くことがポイントです。後は、他の問と全く同様に解くことができます。

【採点結果からの感想】

平均点は53点台で、例年に比べるとかなり低い点数でした。問題の傾向が例年と少し違うせいかもしれませんが、問題自体は難しくはなっていません。基礎的な内容を問う必答問題①の正答率が問1を除いて、期待していたほどよくありませんでした。どれも教科書や参考書に出てくる基本的な問題ですので、意外でした。必答問題②に関しては、問1と問2の正答率は比較的よいものでした。しかし、問3と問4の正答率があまり高くありませんでした。両方とも、判別式に帰着させる簡単な応用問題です。そして、選択問題③は、全ての問題の正答率が低いという結果でした。点数から、受験生は、整数問題が苦手なのかなという感想を持ちました。それに比べると選択問題④の問1-3の正答率は、そんなに悪くありませんでしたが、問4の正答率は、全問題の中で最低でした。やはり、問4の内容がよく理解できていないせいかもしれません。以上のことから、①と②の正答率が高いかどうか、点数の差として出てくる試験でした。

【これからの学習の指針】

出題は非常に基本的なものばかりです。まずは、教科書の基本内容を確実に習得しましょう。それには基本的な内容の理解を確認する練習問題を多く解き、それを反復することによって、問題を解く定石や公式をしっかり身につけましょう。応用力を確かめる問題に対しては、問題文を注意深く読み、問題の内容をよく理解することがまず大事です。そして、内容が理解できれば、その中に教科書に出てくる基礎知識を応用して解くことができる「鍵となる事実・関係」を気付かせるヒントが必ずありますからそれに気付いて下さい。そのためには、問題の内容の中で複雑そうに見えるものは（場合分けなどして）きちんと整理して明確にしてから考えるとよいでしょう。（実際、今年の試験問題も、このような応用問題が解けるかどうかは点数の違いとなって現れています。）それから、応用問題を解くときでも計算を正確にできるように練習しましょう。せっかく解き

方がわかって計算間違いで得点できないのはもったいないことです。最後に、今年の試験結果から、簡単な応用問題の正答率が、低下傾向にあります。難しい応用問題の正答率が低いのは仕方ありませんが、簡単な応用問題に正答できるかどうかは、試験の出来を左右します。過去の入試問題を調べて、類似の応用問題を解く練習を、特にしていただきたいと思います。